

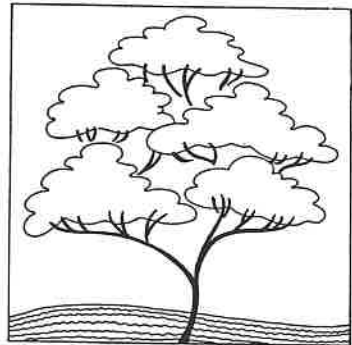
森山師を送る言葉

このたび森山大行師が南米開教総監に御就任
なされました。これは曹洞宗はじまって以来の、
全く異例の抜擢であり、海外布教の若返りのた
めよろこぶべきことと思えます。

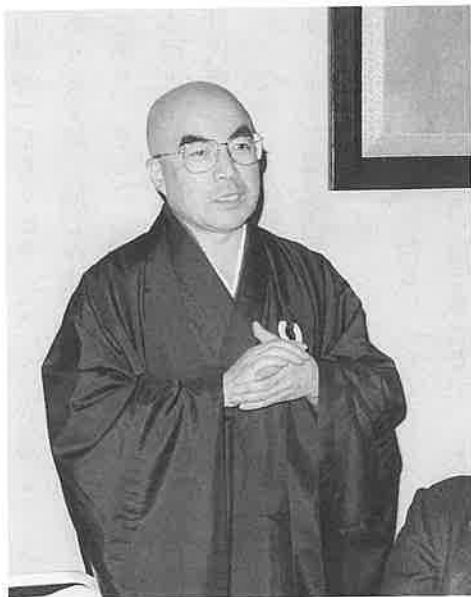
開教総監という役職は、南米のほか、北米と
ハワイに置かれておりますが、北米の山下総監、
ハワイの松浦総監は共に八十歳代のお方であ
ります。そうした年齢ベースの中で、五十歳代

で開教総監の重責を担われるとは、宗務当局の
大英断もさることながら、森山師の力量と徳望
のしからしむるところであります。

私は善光寺さんの紹介で十年ほど前はじめて
森山師に会いました。その時、「これは絵になる
風貌だ。将来輸出できる禪の顔だ」と思いまし
た。といいますのは、かつてフランスで大活躍
された弟子丸さんが素晴らしい成果を挙げられた



要素の中で、あのご面相の果たした役割はたいへん大きかったのではないかと思います。フランス人が達磨大師の再来かのように思ったりしいということはご本人から聞いた話であります。が、そういえば森山師の弟子のフランス人バシユール・ルース浄信さんは森山師を若き達磨大師のように敬慕されたのではないかと思います。彼女は善光寺留学僧第四期生に採用されま



したので私共とも親しい間柄なのですが、昨年南フランスに禅堂を建てられました。

そうした経緯からみて、海外布教の経験豊かな森山師は、将来フランスに渡り、ポスト弟子丸の禅をフランスに挙揚するのではないかと思っていたのですが、今回計らずも南米大陸からお呼びがかかり、開教総監として赴任されることは、男子の本懐これに過ぐるものはないと思います。

開教総監というのは開教師とは格が違うのです。ハワイの開教総監松浦師は私と同郷で、師は私の師寮寺の首座でしたので中学時代から親しい間柄であり、五十年來文通しておりますが、彼の長い長い開教師時代は「レバレンス松浦」として手紙を出しておりました。それが開教総監になると途端に「ビショップ松浦」に変わるのです。宗門でいえば「老師」が「禪師」に変わるようなもので、「ビショップ森山」はいわば「森

山禪師」であります。たいへん名譽なことであります。ありますが、何しろ地球の裏側の国に出向くのであり、そこには言葉の障壁があり、また経済事情と治安の問題もあり、さらには日系社会の世代交代に伴い、日本的布教の行詰りもあるといった様々な困難が待ちかまえております。そうした中で禪堂新築という事業が目前に控えております。

それで、ただ気軽るに「おめでとう。いってらっしゃい」では済まされない。しっかりと頑張ってください。達磨大師でさえ九年面壁して慧可大師を得たのであるから、四年の任期を少なくとも三期ぐらいはつとめしつかりした基礎を築いてほしいと激励しようではないかという気持ちでこの会を發起し、ご案内申し上げますところ、大勢の皆様にご参集いただき本当に有難うございました。発起人を代表して厚く御礼申し上げます。

